

(2)調査結果一覧<表-3>からの結果

a.指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度および調査地点において最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成20年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、ヒル(41地点)であった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物の出現頻度(回)	指標生物の出現割合(%)	階級別出現割合(%)	優占種となった頻度(回)	優占種になった割合(%)
I きれいな水	1 アミカ	0	0.0	23.1	0	0.0
	2 ウズムシ	13	4.0		2	1.7
	3 カワゲラ	8	2.5		0	0.0
	4 サワガニ	12	3.7		5	4.2
	5 ナガレトビケラ	8	2.5		0	0.0
	6 ヒラタカゲロウ	12	3.7		3	2.5
	7 ブユ	5	1.5		0	0.0
	8 ヘビトンボ	8	2.5		2	1.7
	9 ヤマトビケラ	9	2.8		3	2.5
II 少しきたない水	10 イシマキガイ ※	0	0.0	34.3	0	0.0
	11 オオシマトビケラ	7	2.2		4	3.4
	12 カワニナ	21	6.5		15	12.6
	13 ゲンジボタル	5	1.5		1	0.8
	14 コオニヤンマ	16	4.9		2	1.7
	15 コガタシマトビケラ	13	4.0		4	3.4
	16 スジエビ	38	11.7		30	25.2
	17 ヒラタドROMシ	11	3.4		6	5.0
18 ヤマトシジミ ※	0	0.0	0	0.0		
III きたない水	19 イソコツブムシ ※	0	0.0	29.0	0	0.0
	20 タイコウチ	5	1.5		0	0.0
	21 タニシ	19	5.9		6	5.0
	22 ニホンドロソコエビ ※	1	0.3		1	0.8
	23 ヒル	41	12.7		20	16.8
	24 ミズカマキリ	7	2.2		0	0.0
IV 大変きたない水	25 ミズムシ	21	6.5	13.6	8	6.7
	26 アメリカザリガニ	9	2.8		1	0.8
	27 エラミズ	4	1.2		0	0.0
	28 サカマキガイ	11	3.4		1	0.8
	29 セスジユスリカ	14	4.3		4	3.4
	30 チョウバエ	6	1.9		1	0.8

(注)割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。

(注)※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

b.前年との比較

平成20年度の調査地点61地点のうち27地点が平成19年度と同じ地点での調査であった。これらの27地点の水質階級を比較すると、同じであったところが14地点、よくなったところが8地点、悪くなったところが5地点であった。

<表-5>前年度に対する水質階級の比較
(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度よりよくなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	8	14	5	27
割合(%)	30	52	18	100

c.河川別調査結果の概要

表-3から考察される河川別調査結果の概要は次のとおりである。また、各調査地点における水質階級は、図-1及び表-3のとおりである。

- ① 安田大川
安田大川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はミズムシであった。
- ② 笠松川
笠松川では1地点で調査が行われ、“きれいな水”と判定された。優先種はスジエビとミズムシであった。
- ③ 爛川
爛川では3地点で調査が行われ、平均して“少しきたない水”と判定された。優先種はカワニナ、スジエビであった。
- ④ 鴨部川
鴨部川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑤ 新川水系
新川水系では、新川1地点、春日川5地点、葛谷川1地点で調査が行われた。新川で“少しきたない水”、春日川で“少しきたない水”、葛谷川で“きれいな水”と判定された。優先種は、新川でスジエビ、セスジユスリカ、春日川でカワニナ、コオニヤンマ、スジエビ、葛谷川でサワガニ、スジエビであった。
- ⑥ 御坊川
御坊川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はミズムシとチョウバエであった。
- ⑦ 杣場川
杣場川では1地点で調査が行われ、“大変きたない水”と判定された。優先種はセスジユスリカであった。
- ⑧ 摺鉢谷川
摺鉢谷川では3地点で調査が行われ、“きれいな水”、“きたない水”と判定された。

主な優先種はミズムシであった。

⑨ 香東川水系

香東川水系では、香東川7地点、内場川1地点、小出川1地点で調査が行われた。香東川上流で“きれいな水”、中流から下流にかけて“少しきたない水”、“きたない水”と判定された。内場川、小出川はともに“きれいな水”と判定された。優先種は香東川上流でヒラタカゲロウ、ゲンジボタル、中流から下流ではスジエビ、ヒルであった。内場川、小出川の優先種は、サワガニ、カワニナであった。

⑩ 本津川

本津川では4地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。主な優先種はカワニナとスジエビであった。

⑪ 青海川水系

青海川水系では、青海川1地点、神谷川1地点で調査が行われ、ともに“少しきたない水”と判定された。優先種は、青海川でカワニナ、タニシ、神谷川でカワニナ、スジエビであった。

⑫ 綾川

綾川では14地点で調査が行われ、上流で“きれいな水”、中流で“少しきたない水”～“きたない水”、下流で“少しきたない水”と判定された。主な優先種は、上流でヤマトビケラ、中流でスジエビ、タニシ、ヒル、下流でコガタシマトビケラ、スジエビであった。

⑬ 大東川

大東川では下流2地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はヒル、ミズムシ、セスジユスリカであった。

⑭ 土器川

土器川では上流1地点で調査が行われ、“きれいな水”と判定された。優先種はサワガニとヘビトンボであった。

⑮ 金倉川

金倉川では下流2地点で調査が行われ、“きれいな水”～“少しきたない水”と判定された。主な優先種はスジエビ、ヒルであった。

⑯ 高瀬川

高瀬川では中流1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はオシマトビケラとヒルであった。

⑰ 財田川

財田川では4地点で調査が行われ、“少しきたない水”～“きたない水”と判定された。主な優先種はカワニナ、ヒラタドロムシであった。

⑱ 一の谷川

一の谷川では3地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、アメリカザリガニであった。

⑲ 柞田川

柞田川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。